

【前回の意見交換のテーマ】 今後のワーケーションの普及啓発のあり方
(企業及び地域の動向、今後の推進に向けた課題など)

企業への訴求について

導入の効果は、各種調査や実証等で明らかになってきているものの、企業側の理解に至っていないことから、企業に対して、どのような切り口で訴求していくかを検討する必要がある。

<主なコメント>

- 企業が導入に踏み込めていないのは、導入のメリットや効果が十分理解されていないからではないか？
- ワーケーション 導入の価値を企業にどのように伝えるかを検討すべき。
- 柔軟な働き方を推進している企業は、人材採用やブランディングにも効果を上げている。
- 休暇メインのイメージが先行している。働き方、企業課題の解決の手段として推すべきではないか？
- ビジネス寄りのワーケーションに対する理解を深めることが大切である。
- 社員のリモート疲れやエンゲージメントの低下が課題になっていることから、ワーケーションは、組織・チームワークの再生に有効かもしれない。

持続的な取組みについて

持続的な取組みに向けては、各ステークホルダーのメリットを明確にするとともに、ネットワーク化も手段の一つと考えられる。

<主なコメント>

- 関連するステークホルダーがワーケーションを理解し、需要創出を図る為にはネットワーク化が必要である。
- 企業と地域を結びつける役割を担うプレイヤーの育成も必要である。
- 取組みを自走化するためには、その受益者が誰なのか、益が何になるのかを明確にすることが重要である。